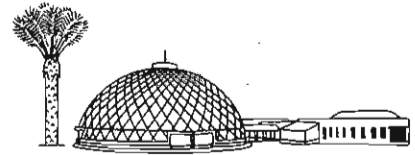


かんちけん倶楽部

TOTTORI KANCHIKENCLUB



○会員の皆さまへ (国立大学法人鳥取大学乾燥地研究センター副センター長 恒川 篤史)

はじめに、遅ればせながら着任のご挨拶を申し上げます。
私は、昨年4月に植物生産分野の教授として着任しました。
前職は東京大学農学部助教授、さらにその前は環境省
国立環境研究所に勤めておりました。今までに、JICA専
門家としてタイに派遣されたり、ハーバード大学に留学し
た経験があります。また内閣府の総合科学技術会議の事
務局で2年間、役人生活を送ったこともあります。

そして昨年4月、今までずっとあこがれていた、この乾燥
地研究センターに着任しました。同時に、前センター長の
稲永先生から、21世紀COEプロジェクトの拠点リーダー、
および拠点大学交流事業の日本側コーディネーターの任を引き継ぎ、また神近センター長より副センター長に拝命
されました。

さて、拠点大学交流事業および21世紀COEプログラムの現況について簡単にご説明申し上げます。拠点大学
交流事業は2001年度にはじまりました。今年度は中間評価を受け、幸い継続が決定されました。後半5年間では、
公衆衛生学の黒沢先生(医学部)や経済学の小池先生(工学部)にもご参加いただき、さらに総合的な研究体制
を構築し、真に黄土高原の環境修復に役立つ研究を進めてまいります。

21世紀COEプログラムは、2006年が最終年度です。この2006年は国連により「砂漠と砂漠化に関する国際年
(International Year of Deserts and Desertification: IYDD)」と宣言されています。そこでこの機会を利用して
COEプログラムの成果を発表するために国際会議を企画しています。この国際会議は、日本でのIYDDイベント
として位置づけ、8月25日に東京にある国連大学本部にて国際会議、8月27日に鳥取県民文化会館にてシンポジウ
ム、翌28日に研究集会を開きます。鳥取にも国連砂漠化対処条約のディアロ事務局長、中国科学院の王涛教授な
ど、乾燥地分野の第一線でご活躍されている方々をお招きして、乾燥地研究センターと鳥取を世界に向けてPRし
ていきたいと考えております。

最後になりましたが、稲永忍前センター長は、昨年4月、つくばにある(独)国際農林水産業研究センター(JIRCAS)
に理事長としてご栄転されました。しかしご栄転後も、乾地研の客員教授として、またJIRCASの理事長としての立
場で、当センターをしっかりと支えて下さっています。乾地研の教職員一丸となって、さらなる精進に努める所存で
ございますので、とっとり乾地研倶楽部会員の皆様には、引き続き、力強いご支援をお願い致します。



「とっとり乾地研倶楽部」は、世界の乾燥地農業、砂漠化防止に貢献する鳥取大学
乾燥地研究センターの活動を支援しています。

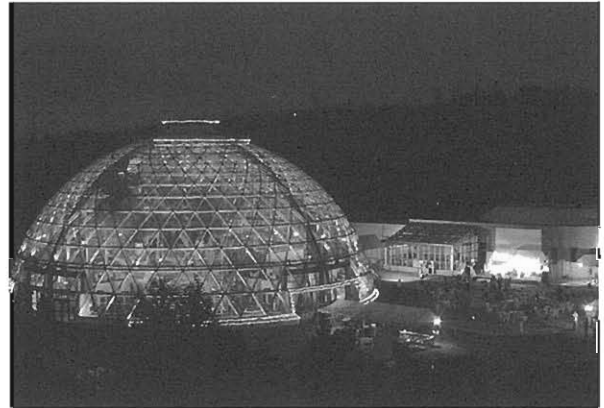
2005年度乾燥地研究センターの活動報告

〈乾燥地研究センター一般公開〉

乾燥地研究センターでは、センターの研究活動を広くみなさんに知っていただくため施設の一般公開を致しました。

◇ 平成17年8月6日(土)

「ラクダにのって海を渡る」と題し、スーダンでの現地住民とラクダとの生活体験談を縄田講師が講演、アリドーム・展示室の見学、研究室紹介、乾燥地や鳥取砂丘、センターに関する乾地研〇×クイズ、鳥取砂丘の砂を利用した砂絵工房での砂絵の作製、そして、好評のメロンの即売などを実施しました。



ライトアップされたアリドーム

◇ 平成17年10月9日(日)

安講師により、「中国・新疆ウイグル自治区の自然と暮らし」と題し、現地の様子等を映像で分かりやすく解説。アリドーム・展示室の見学、研究室紹介、そして、乾燥地や鳥取砂丘、センターをテーマとして問題を解いて回るクイズラリー、メロンの即売を実施しました。



実験をする子どもたち

〈きみもなろう！砂漠博士〉

11月26日(土)に小学校5、6年を対象に企画。今年のテーマを「案外 塩害 大問題」と銘打って、それぞれ班に分かれて共同で実験、砂と水、植物、そして、問題の塩との関係を解き明かし、最後にみんなで実験成果を作成し報告しました。

砂

漠

豆

知

識

～砂漠はどうしてできるの？～

自然の砂漠は、地球で非常に乾燥した場所がどういう理由でできるかで4つに分けられます。

1. 亜熱帯砂漠:赤道を中心とした熱帯で湿った空気が空高く上昇し、雨を降らし乾燥した空気が流れが亜熱帯地域で下降、下降するにつれ熱せられ地面近くで暑く乾いた空気となって地表を非常に乾いた状態とし、砂漠になることです。(サハラ砂漠やアラビア砂漠、オーストラリア砂漠など)
2. 冷涼海岸砂漠:沖に冷たい寒流が流れる海岸にできるもので、海岸付近の空気は冷たく地表を流れ、海岸から離れた山地帯で暖かくなっていきます。雨を降らせる上昇気流が海岸付近で発生せず、雨が降りにくい状態となり乾燥して砂漠となります。でも、海岸が近いため、空気が湿ってしばしば霧が発生する独特の砂漠です。(南アメリカのチリのアタカマ砂漠、アフリカのナミブ砂漠など)
3. ほかに大陸内部砂漠、雨陰砂漠と呼ばれるものがあります。

乾地研のひと

〈助教授 安田 裕〉

2002年6月から水資源分野にいます。大学院中退以来6番目の職場です。乾燥地研究センターの水資源分野はこれまで灌漑専門の方々でしたが、私は少し違って水文(すいもん)が専門です。宇宙のことを扱う天文学に対して、水文学は水全般を扱うものです。乾燥地での限定された地下水、降雨、土壌水、河川水のことを考えています。



国際協力機構(JICA)にいた頃は、井戸掘りプロジェクトの担当として、ナイジェリア・ネパール・ボリビア・ブータンなどに滞在して日本国ODAの現場を知りました。日本経済バブル時代であったので、十分な予算を使って乾燥地の人々に水を出してあげることができたのは大きな喜びでした。また、北欧の大学にいた頃、学生を引率してチュニジアへ現地観測に行きました。数ヶ月間、大学院生2名と先方研究所の面々と接して、西欧人権民主社会、先進的アラブ社会、そして東アジアの独特な社会のふれあいを感じ取ったものでした。現在は、乾燥地研究センターが推進している中国黄土高原でのプロジェクトに加え、環地中海水圏環境プロジェクトに取り組んでいます。

〈講師 近藤 謙介〉

2005年3月に博士課程を修了し、4月から研究員としてやってきました。大学受験の時から乾燥地における農業に興味を持ち、学部・修士課程と乾燥地研究センターの植物生産分野に在籍していました。したがって、研究者としてのスタートをここ乾燥地研究センターで切ることができた幸運をつくづく感じている今日この頃です。



私は野菜の栽培と品質について研究をしています。乾燥地では文字通り雨が少なく、使える水の量が限られています。そこで、植物の生育に必要な水を効率よくあたえながら農業を行う「節水栽培」という考え方が大切になってきます。一方、野菜は食べ物なので「美味しい」ということが重要だと私は考えています。皆さんは「甘いトマト」と書かれているトマトが店頭に並んでいるのを見たことがありますか?この秘密はトマトとトマトに与える水のコントロールに秘密があります。このように、水をできるだけ節約しつつ、しかも美味しい野菜を作ることができれば、乾燥地をはじめとする人々の生活がより豊かなものになるでしょう。この理想を実現するためにこれからも頑張っていきたいと思います。

～砂漠化の何が原因なの?～

大きく気候的要因と人為的要因に分けられますが、その割合は「13:87」と言われています。

気候的要因:サハラ砂漠の南では、1930年以降干ばつが数年おきに現れ、1985年にかけて雨量も少なくなりました。特に1968年～73年の干ばつはひどく、大地は枯れ果ててしまいました。このようなことから、砂漠化防止の国際的取り組みが生まれました。サハラ砂漠のような気候変動は、大気中の二酸化炭素の増加による地球の温暖化や熱帯森林の減少、海の温度の変動などと因果関係があるといわれていますが、はっきりと解明されていません。

人為的要因:山羊や羊の飼いすぎ、樹木の伐採、開墾のなどにより植物が減り、地表が風にさらされ(風食)、土が水でながされる(水食)状況となります。更に、間違った水管理により地表に塩がたまり、農作物も作ることができなくなります。

Velupillai RASIAH (ベルピラ・ラッシャ)

Q1: 出身地はどこですか？

オーストラリアです。日本人に人気の観光地である、ケアンズに住んでいます。ケアンズからは東京、大阪、福岡へ向け1日3便が就航しており、約6時間かかります。そして、人口約12万人の多文化的なところです。12～3月までは熱帯のように暑く、雨の多い夏の気候です。秋や冬は落ち着いた気候で、日中20～25度、夜間15～20度の過ごしやすい気温になります。また、世界遺産(グレート・バリア・リーフや熱帯雨林)として有名な観光地でもあります。街のあちこちで若い日本人観光客を目にすることから、ケアンズはオーストラリア人の街というより日本人の街のような感じます。



Q2: 乾地研でどんな研究をされているんですか？

中東アジアやアフリカで確認される、想定される乾燥・半乾燥地域における塩水点滴灌漑の利用と関連する持続可能な問題について研究しています。これらの地域における利用可能な水資源は塩分を含んでおり、土壌資源は脆いので、この研究は重要と言えます。

Q3: 鳥取県、鳥取砂丘についてどう思われますか？

鳥取県は雨が多く、寒い気候ですね。寒さについてはカナダやアメリカで慣れていますが、冬の間、アパートにセントラルヒーティングがないことや暖房費の高さに不便を感じています。また、もし鳥取が国際的、友好的な都市を目指すなら、主な病院、バスターミナル、駅、そして県庁に英語の話せる人を雇うか、ボランティアを置くべきだと思います。鳥取砂丘は美しく、白く、長い砂浜で、スリランカの浜辺を思い出させます。

Q4: 鳥取の人はどうですか？

一般的に、私たち外国人が困っているときに手を差し伸べてくれるのは女性で、男性はどちらかと言うと外国人と話すのを避ける傾向にあるようです。女性の方が英語を話すことを恥ずかしがらないような気がします。

Q5: お国に帰られたら何をされますか？

上席研究員として、オーストラリアでの仕事に戻ります。ケアンズでお困りの際は、velurasiah@hotmail.comへ連絡下さい。何かお手伝い出来ると思います。

Jiemin WANG (ジエミン・ワン) 王 介民

Q1: 出身地はどこですか？

中国・山西省南部の小さな村で生まれました。北京の大学で6年間学んだ後、1963年からずっと蘭州の研究所に勤務しています。蘭州は古代シルクロードに沿った主要な街でした。乾燥した街です。約250km北西には、有名なバダイジャラン砂漠やトングリ砂漠があります。勤務する研究所では、私も含め、乾燥地環境について研究しており、鳥取大学とも協力関係にあります。



Q2: 乾地研でどんな研究をされているんですか？

乾地科学で、特に衛星リモートセンシングを用いた地域蒸発散量について研究しています。

Q3: 鳥取県、鳥取砂丘についてどう思われますか？

鳥取は小さな県ですが、とても素敵なところです。特に砂丘の景色は素晴らしいです。また美しく、歴史的に興味深い場所が沢山ありますね。

Q4: 鳥取の人はどうですか？

私も妻も言葉の壁があり、地域社会になかなか溶け込めません。しかし鳥取で出会う人は皆親切で礼儀正しく、他の場所より正直な方が多いように思います。より調和されているところも、私は大変好きです。

Q5: お国に帰られたら何をされますか？

個人的な関心事について、また関係する人々のために仕事を続けるつもりです。両国の友好と協力のために、微力ながら頑張りたいと思います。

【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局

鳥取商工会議所

鳥取市本町3丁目102番地 / TEL (0857) 26-6666 FAX (0857) 22-6939

鳥取県総務部教育・学術振興課

鳥取市東町1丁目220番地 / TEL (0857) 26-7814 FAX (0857) 26-8110